

〔県民局だより〕

「備前県民局管内の畜産の現状と今後の振興方針」

備前県民局 畜産班

1 備前局管内の現状

備前地域の畜産の主な概況は次のとおりです。

- (1) 備前県民局管内の畜産農家は、全般的に小規模農家が多い。
- (2) 酪農家自らが自家牧場の牛乳を利用し、乳製品の製造・販売を行っている。
(参考1)
- (3) 肉用牛の中でも、肥育牛の頭数は、県下全体の約4割を占めている。
- (4) 地域で生産された食材を利用した”ご当地バーガー”を積極的に販売。(参考2)
- (5) 県下の水田の4割強を有する備前地域の特性である水田農業の畜産的利活用を図り「耕畜連携」へ取り組みを行っている。

参考1

○ジェラート

- ①安富牧場ファミリーユ (岡山市足守)
- ②まつだ牧場ミルク工房 (岡山市御津河内)
- ③ミルク工房ジェラテリアMISA0 (岡山市灘崎町)
- ④イタリアンジェラートジェヌイーノ (岡山市松新町)
- ⑤牛窓ジェラート工房コピオ (瀬戸内市牛窓)

○チーズ

- ①吉田牧場 (吉備中央町上田東)
- ②福光チーズ工房 (岡山市河原)

参考2

- ①吉備高原バーガー：吉備中央町産のおかやま地どり (パテ用)、ゆず味噌+ α 、加茂川キムチ
- ②備前バーガー：(有)小林牧場で育てられた備前牛、備前市産のタマネギ・トマト・レタス、ピクルスの代わりにキンカン、備前いちじくジャムのデミグラスソース、備前産朝日米の米粉のパン
- ③自家製黒毛和牛肉のハンバーガー：河内畜産(吉備中央町)で育てられた黒毛和牛(パテ用)、町内産のパン、自家産タマネギ・レタス、親戚のトマト

2 今後の進め方

この中でも、飼料作物については、備前県民局管内は、県下の水田の4割強を有しており、この地域特性を生かして、「稲わら等の未利用資源の有効活用」、「稲

発酵粗飼料(WCS)と飼料米の作付け推進」、「良質堆肥の還元による資源循環型農業の推進」の3本柱で「耕畜連携」の輪を広げて行くこととしています。

(1) 稲わら等未利用資源の一層の有効活用

稲わらの収集は、耕種農家を中心とした利用組合の組織化により拡大を図ってきました。H21年度には、畜産農家により稲わら梱包用機械の導入（西大寺地区）により一層の効率化が図られましたが、更に、県南水田地帯（藤田・灘崎地区等）の大型稲作農家への新規取組の推進により収集面積を拡大する必要があります。

さらに、「河川敷を活用！低コスト自給飼料確保対策事業」を活用した河川敷野草の飼料利用実証（岡山市浜旭川河川敷1ha）や麦わら利用等の実証等未利用資源の活用に取り組んでいきます。

(2) 耕種農家と畜産農家の「話し合い」によるWCSの取組み拡大

「岡山地域飼料稲WCS生産利用連絡会」（設立：H21年2月、構成：耕種農家15戸、畜産農家31戸）を通じて会員相互の情報交換や栽培技術研修、更には適正価格体系等の検討を広域的に行いながら、耕種農家と畜産農家のマッチングを進め、H23年度取組み面積を76haに拡大する計画であります。

取組み希望農家は増える傾向で、また「おからく」の仲介等で畜産農家への斡旋も行われてはいますが、専用機械等の能力増強が今後の鍵となっています。

(3) 広域流通の推進

稲わらやWCSの生産拡大のためには、需要の多い県北の大規模畜産農家への供給が不可欠であることから、飼料流通業者等（くみあい飼料、JA）へ働きかけて、受注・配送・代金決済を行う広域流通システムを構築したところであり、今後も、本システム活用して広域流通の拡大を図る必要があります。

(4) 飼料米の作付け推進

H20年度から和気町において飼料米の生産を推進しています。飼料製造工場（岡山市）で籾殻のついた米を食品残渣などと混合して飼料化を図り、大型畜産農家（和気町）で給与試験を開始しています。H23年度は、122haを目標に取り組みの拡大を図る計画です。取組み希望農家は増えると見込まれますが、一時保管場所等の確保が課題となっています。

家畜飼養頭羽数

(H22.8.1現在 家保調べ 単位：戸・頭・千羽)

区分	乳用牛		肉用牛			豚		鶏	
	戸数	頭数	戸数	繁殖頭数	肥育頭数	戸数	頭数	戸数	羽数
備前局	104	4,235	90	737	11,483	7	205	34	820
岡山県	386	18,709	690	5,654	30,175	34	41,328	180	11,469
対県比	26.9%	22.6%	8.7%	13.0%	38.1%	20.6%	0.5%	18.9%	7.1%